

日本基督教団

東日本大震災救援対策本部ニュース

Vol. 06

2012年10月11日発行

169-0051 東京都新宿区西早稲田 2-3-18 T/F 03-3205-6088 救援対策本部長 石橋秀雄



祈りつつ、
支えたい

被災された方々、震災により原発事故に伴う放射能汚染の影響を受けておられる方々を覚えて神にある平安と慰めをお祈りいたします。また、昨年の3月11日以降、教団の震災救援対策活動に多くの方々のお祈りとお支えをいただき感謝いたします。余りに大きな出来事ゆえに、戸惑いつつもなせることを精一杯になしてはきましたが、尚不十分であることを思わずにいられません。神より知恵と力とをいただいて、一層の取組みに励みたいと思っています。

震災から1年半が過ぎ、教会の復興も始まっています。また、会堂及び牧師館建築資金貸付申請もスタートするに至りました。幸い、国内募金は、現在3億9千万円を超えており、2015年3月までには、教会復興の資金5億円は、優に超えて、目標の10億円に少しでも近づいてくれるのではないかと思います。これも諸教会と信徒の皆様が単年度ではなく、3年に亘っての長期の献金を立ててくださっているからこそと感謝にたえません。今後、教会堂・牧師館の再建等が進めばまとまったの報告が出来ることと思いますので、是非、祈りをもって各個教会の再建・復興をお覚えいただきと思います。

7月14日には、北海道で東日本大震災救援対策本部による報告会を札幌北光教会で開かせていただきました。十分な案内も出来ず、参加者35名と少なくはありましたが、15を超える教会からの出席者があり、諸教会が関心を持ってくださることと感謝いたします。教団の活動報告を石橋秀雄議長と7月まで救援対策室主事を務めてくださった前北未央姉がしてくださり、熱心に耳を傾けてくださいました。また、15日には、札幌教会で、5教会交流会の場で、80名を超える方々に震災報告をさせていただきました（詳しくは、「教団新報」4754・55号/8月18日発行をご覧ください）。地域支援についての報告に聞き入ってくださいましたが、地域支援については、大きな困難を覚えています。教団の働きをどの地域にあっても感謝を持って受け入れていただいています、財政面での行き詰まりを覚えています。現在、地域支援の財源は、海外募金に拠っていますが、2億2千8百50万円弱と目標を大きく下回り、このままでは、来年度の活動が出来ない状態にあります。是非、地域支援のためにもお献げいただければと願っています。

皆様の教会では、それぞれに募金の取組みをしていることと思います。3年間毎年100万円を献げたいと言っている教会もあります。バザーの収益を献げようと思ったださっている方々もあろうかと思います。皆様の様々の取組みは感謝にたえません。私が仕えます教会でも、全ての礼拝献金の1割を献げることと決めて、そのつど祈りをもって献げさせて頂いています。共に祈りをもって被災教会、被災地域、放射能汚染被害を覚えて祈り、お支えしたいと思います。

日本基督教団
救援対策本部委員
北 紀吉

教会再建のため、祈りをひとつに

千厩教会の再建のため

邑原宗男（奥羽教区総会議長）

奥羽教区は津波被災教区と受け止められています。確かにあの地震に続いて起こった津波は、宮古教会、新生釜石教会の礼拝堂牧師館を直撃しました。このことは、キリスト教関係のさまざまなメディアにより、繰り返し詳しく報告されました。

実は、地震により大きく被災した千厩教会があります。この教会は教団の決議に基づく東北地方特別開拓伝道により伝道を始め、50年にもならんとする建物は、傾斜地に建てられ、老朽化していました。2003年の三陸南地震の時から、相次ぐ地震のため、土地も建物ももはや地震に耐えるものではなく、礼拝堂・牧師館および旧幼稚園舎（借地）は危険建物、土地は危険地帯となっていました。地震直後、内藤留幸総幹事の配慮により奥羽教区への1千万円の支援のうちより、牧師家族のために借家費用を拠出し、今後について教会として、直ちに検討をはじめました。もちろん、千厩教会は、小規模の教会です。教会員も高齢です。その一人ひとりが、祈りつつ、決断することになりました。それは「無謀とも思えるようなもの」と譬えた方がいるほど、重大な課題です。この決断に対して、奥羽教区常置委員会（緊急支援委員会）は、共に歩むことを始めました。

まず、移転先を探しました。幾つもの候補地を検討し、一つひとつの条件をつき合わせながら、概ねこの場所ということを決めて不動産屋との交渉に入りました。

それと同時に、どのような礼拝堂・牧師館を建築していくかを教会員たちは繰り返し協議しました。設計者の選定・依頼で具体的に図面を何度も書き直していただきながら、教会としての資金準備がどのようになっているかを教区としても検討し、意見を伝え、再検討を繰り返しました。

資金計画の中でまず土地代金の捻出です。常置委員会で支援計画を実施するために1千万円を準備しました。2012年3月30日、広さ285坪を1,425万円で取得しました。

土地を取得してもすぐに問題解決とはなりません。



◆常置委員会での三河豊牧師（千厩教会）

ん。何しろ資金計画がどうしても立たないのです。小規模教会ですから、建築資金が積み立てられているものではありません。教会員の建築献金申し出も、十分に賄えるものではありません。祈り、献げる決断を尊重しつつ進めるために、常置委員会は、改めて、常置委員2名と教会役員による建築委員会を設置して、再建事業を進めることを提案しました。このことは、常置委員会の責任を大きくすることです。8月11日、第1回建築委員会が開催され、今までの資金計画の見直し、今後の日程、さらに資金繰りについて協議しました。土地の取得、礼拝堂兼牧師館の建築、危険建物となった現在の礼拝堂・牧師館ならびに旧幼稚園舎の取り壊し、旧幼稚園舎の建っている土地の返還を進めるこの再建事業のために、教団救援対策本部の支援を必要としています。事業総経費は7,500万円です。必要が満たされることを祈っています。

これまでとこれからの間で

高橋和人（東北教区総会議長）

震災から1年半となりました。東北も酷暑でした。その中で東北教区被災者支援センター「エマオ」にはこれまでになく多くのボランティアが参加しています。遠く台湾の教会からも大勢で来ていただきました。炎天下をいとわずワークに励んでくださったことに勇気づけられています。活動内容も泥出しから農耕地の再生へ、石巻では養殖の手伝いなど生活再生、仮設や地域のコミュニティーへの働きかけなどへ次第に展開してきています。

東北教区88教会の内50以上の教会が被災しました。それぞれ補修や補強が進み、大きな被害を受けた教会でも補修が進んできました。岩沼教会は1930年の完成の石造建築です。大変雰囲気のある重厚な建築で、建築学的にも歴史的にも貴重で地域の人々に親しまれてきました。しかし石組み建築は地震国には適さない工法で、礼拝堂本体と特に塔の部分が大きく損傷し、塔は一部の石材がつぶれ、礼拝堂との接合部分は離れ、傾斜してきました。礼拝堂にも横に一周するほどの直線の亀裂が入り、すぐに立ち入り禁止にされました。

当初、多くの人が補修は無理で、保育園の園児の安全のこともあり早急な解体新築が必要だと考えました。岩沼は教会から国道を挟んで数百メートル先まで津波が押し寄せ、また市内の古くからの建物が倒壊して街並みも人々の生活も傷ついていました。そのためにも教会堂がそこに残ることは復興の希望を表すことになります。建築の専門家からも惜しむ



声が上がりました。幸いにも、石造の専門業者と建築業者が得られて特殊で困難な工事が愛着のある姿をそのままに見事に完了しました。7月16日には復興記念礼拝が行われ、教会と地域の多くの人が集まりました。

他にも、ヴォーリズ建築で知られた福島新町教会は大きく壊れた屋根と煙突の塔と内装の補修がほぼ終わり、郡山細沼教会も登録文化財として外観を残して再建できました。安積教会も補修が完了しました。

仙台ホサナ教会、川俣教会で牧師館復興の工事が始まりました。白石教会、中村教会、鹿島栄光教会、福島教会、常磐教会、名取教会で復興、再建の準備が進められています。全国の教会の祈りと支援に力づけられて見通しが与えられてきています。

一方で、放射能汚染の影響はますます深刻です。小高伝道所のある南相馬市小高区は日中の立ち入りができるようになったものの、夜間はとどまることができず、ライフラインもいまだに復旧していません。放射線量の高いところが点在しています。廃棄物の処理方法も決まっておらず片づけも進んでいません。地震と津波の被害が残された上に、人が入らないことで建物の被害が進み続けています。浪江伝道所のある浪江町は立ち入りできず、町の復興計画の見通しが立たない状態です。そして、福島県と南東北は長期にわたる放射能汚染の不安、健康、生活、経済に深く入り込んだ痛みを抱えています。東北教区もできるだけの対応を重ねていますが課題はきりがありません。なお一層のお祈りをお願いします。

復興の足音が聞こえてきます

秋山 徹（関東教区総会議長）

東日本大震災から一年半を経過して、関東教区では被害を受けた会堂・牧師館や、幼稚園・保育園などの復興計画が、当初の戸惑いとショックから立ち上がって、着々と進んでいます。大きな被害のあった教会は、古い会堂を壊して建て替え新築を決意しました。設計者を決め、どのような教会にするのか、それぞれの教会の宣教の将来を考えながら基本設計の構想をまとめているところです。今年度中に建設に取り掛かる予定の水戸中央教会、来年のクリスマ

スは新会堂で祝いたいと願っている宇都宮教会、無牧となった伊勢崎教会は長老会を中心に新会堂を建設する決意を固めました。それぞれの教会の新築計画は、1億円に近い金額を要しますので、その資金計画の作成には大きな決意を迫られています。教団「被災教会支援金配分要綱」に従って、申請額の50%を支援金に、後の50%を上限とした貸出金にするという原則が立てられていますが、これを基準に、それぞれに知恵を絞り、祈りを合わせて資金計画と取り組んでいます。とりあえず、建築に取り組むための資金は保証されていますが、支援金の比率が60%、70%へと、募金が充実することによって、加算されることがあれば、さらに安心してそれぞれの教会の将来の宣教ヴィジョンを実現してゆくことができます。比較的小さな被害を受けた教会は、ほぼ改修を終わって平常の礼拝と教会の活動が回復しています。桐生東部教会もしばらく牧師家族は牧師館を出てアパート暮らしを余儀なくされていましたが、6月には牧師館に戻ることができました。地震による建物の壊滅と農地の放射能汚染とで大きな打撃を受けたアジア学院は、除染や放射能値の測定や放射能に汚染されにくい作物の開発など地域に先駆けて取り組み、また9月にはコイノニア棟の完成感謝礼拝と着実に回復に向かっていきます。



栃木、茨城、群馬などの幼稚園・保育園のある教会は、建物の補修のみならず放射能の除染も緊急の課題となり、子どもの安全と命に関わりますので、放置できず、多大な資金確保に苦慮しました。さらに、被災地からの園児受け入れ、退園児が相次ぐことによる経営悪化などの問題がありましたが、これも教団の支援体制が整ってきて、少し息をついているところです。海外の教会からの支援も含めて、支えられていることを感じています。

関東教区は、これまでも埼玉や新潟地区を中心に東北、奥羽の被災地への物資の支援やボランティアの派遣を行ってきました。今年7月より教区として継続的にボランティア派遣を実施し、仙台と石巻のエマオの働きに加わっています。参加した人たちが、台湾や韓国の教会から来たボランティアの積極的な働きに刺激を受けたり、被災した人たちの前向きな生き方に励ましを受けたり、そのような悲しみを共有することから生じる心の交流が生まれてきています。これらの動きをさらに加速させるために、被災地をめぐるバス・ツアーを計画しているところです。全国の教区、地区、教会の方々からの祈りと支援に心から感謝しています。

東日本大震災救援募金会計 総額 624,643,903 円

国内 396,167,218 円 海外 228,476,685 円 2012 年 8 月 31 日現在

東日本大震災緊急救援募金・東日本大震災救援募金教区別集計表 (単位: 円)
【2011 年 3 月 15 日～2012 年 8 月 31 日】

教区	件数合計	金額合計
北海	68	2,963,744
奥羽	67	2,356,160
東北	38	1,850,164
関東	411	28,593,366
東京	824	115,640,747
東京教区	10	2,282,956
東京・東	136	15,595,505
東京・西南	230	51,910,421
東京・南	84	15,357,659
東京・北	150	15,264,282
東京・千葉	214	15,229,924
西東京	362	38,013,039
神奈川	311	32,274,352
東海	252	22,894,755
中部	336	45,440,416
京都	57	7,005,129
大阪	280	22,245,626
兵庫	66	8,442,852
東中国	58	3,283,824
西中国	114	5,832,531
四国	220	12,564,708
九州	214	13,556,627
沖縄	56	1,905,275
個人・他	634	31,303,903
総計	4,368	396,167,218

東日本大震災救援対策委員会会計、
東日本大震災救援対策本部会計中間収支計算書 (単位: 円)

	合計	12 年度合計	総合計
	2011 年 3 月 12 日～3 月 31 日	2012 年 4 月 1 日～8 月 31 日	2011 年 3 月 12 日～12 年 8 月 31 日
【収入の部】			
繰入金	50,000,000	0	50,000,000
海外募金収入	210,440,705	18,035,980	228,476,685
国内募金収入	336,817,359	59,349,859	396,167,218
当年度収入合計 (A)	597,258,064	77,385,839	674,643,903
前期繰越収支差額		380,866,480	
収入合計 (B)		458,252,319	
【支出の部】			
救援金	103,607,240	30,776,183	134,383,423
会堂牧師館再建補助金*1	0	31,435,300	31,435,300
見舞金	1,940,000		1,940,000
委員会費	3,093,199	1,318,663	4,411,862
渉外費	917,653	94,710	1,012,363
人件費	16,120,193	9,083,621	25,203,814
事務費	20,387,645	6,875,940	27,263,585
活動費	3,123,444	1,819,303	4,942,747
車両費	3,960,228	1,435,509	5,395,737
建物費	13,241,982		13,241,982
救援対策本部繰出金	0		0
救援対策基金戻入金	50,000,000		50,000,000
当年度支出合計 (C)	216,391,584	82,839,229	299,230,813
当年度収支差額 (A)-(C)	380,866,480	(5,453,390)	375,413,090
次期繰越収支差額 (B)-(C)		375,413,090	

* 1 東日本大震災教会堂・牧師館再建復興工事支援内訳

- ①桐生東部教会 /7,587,550 円 /2012.6.27 送金 ②水戸自由が丘教会 /937,750 円 /2012.8.9 送金 ③益子教会 /910,000 円 /2012.8.9 送金
④仙台ホサナ教会 /7,000,000 円 /2012.8.13 送金 ⑤川俣教会 /15,000,000 円 /2012.8.24 送金

※お詫び 前号 (Vol.05) 記載事項で、下記日付の救援金支払内訳の摘要欄を下記のように修正いたします。

2012.4.18	222,200 円	健康診断 (人間ドック) 受診料および交通費補助 4 名
-----------	-----------	------------------------------

※ はじめまして ※ いいのくみこ 飯野久美子 8 月から「被災者支援センター・エマオ石巻」の専従です



エマオ石巻では毎朝、祈りを持って活動を始め、被災者の方の家の庭の草とりや、仮設住宅訪問などをします。先日は石巻栄光教会にて「夕涼み会」(夏祭り)を行い、地域の被災者の方々など、多くの皆さんに楽しんでいただきました。

所属は西東京教区の阿佐ヶ谷教会。教会学校教師をつとめ、障がい者施設でのワークキャンプに参加してきました。2011 年 3 月 11 日、旅行添乗員をしている私は、海外にいて大地震を体験しませんでした。それを体験しなかったゆえの罪悪感と、日本人としての責任のようなものを感じ、東北に支援に行くことを決めました。仙台のエマオに行き、荒浜地区の汚泥の掻き出しなどの作業に参加しました。

また、職場の先輩の実家が被災し、お母様を亡くされたことから、有志で陸前高田へも行きました。避難所と定められていながら、80 人避難したうち 3 人しか助からなかったという建物の、津波襲来後の無残な様子を見て、大きな衝撃を受けました。この時、イエスはどこにいたのだろうか? と考える時、遠藤周作の『沈黙』を思い起こします。被災された方々と共に、あるいはその人々を背負って、主は共に痛みを負って下さっていたのではないかと。

この地で活動しながら思いおこす聖書は、「あなたがたはキリストの体であり、また、一人一人はその部分です。神は、教会の中にいろいろな人をお立てになりました。」(1 コリント 12:27~28)。与えられた賜物に応じて、なし得ることをするという事。また「(愛は) 自分の利益を求めず、自慢せず、高ぶらない」(1 コリント 13:4,5)。「隣人を自分のように愛しなさい」(マルコ 12:31) の言葉です。神様の御手に委ね、なすべきことを神様がとお与えくださり、活動を続けて行かれることを願っています。■

【募金振込先】振替番号 00110-6-639331 加入者名 日本基督教団東日本大震災救援募金